



松本三枝子先生 略歴

- 1953年1月 神奈川県小田原市に生まれる
- 学 歴**
- 1972年4月 名古屋大学文学部 入学
1976年3月 同大学同学部文学科（英文学専攻）卒業
1976年4月 名古屋大学大学院文学研究科 入学（英文学専攻）
同研究科博士前期課程 修了
1978年3月 同研究科研究生（1979年3月まで）
1978年4月 同研究科博士後期課程 入学
1979年4月 同研究科博士後期課程 入学
1981年3月 同研究科博士後期課程 退学
- 研究歴**
- 1988年7月 University of Reading にて在外研究（文部省）（同年9月まで）
1995年4月 University of Cambridge にて在外研究（文部省）（1996年3月まで）
1998年度 愛知県立大学学長特別教員研究費（研究代表者）「19世紀イギリス女性作家と家父長制」
2006年度 愛知県立大学学長特別教員研究費（研究代表者）「イギリス女性雑誌研究——19世紀後期から20世紀初頭まで」
2011年度 愛知県立大学学長特別教員研究費（研究代表者）「19世紀から20世紀初頭までのイギリスにおける女性の役割と読書——歴史の変遷と文化的意味」
2016年度 科学研究費「手引書としてのマーティノー『経済学例解』研究——物

語による専門的知識の普及」(研究代表者)(2018年度まで)

職 歴

1981年4月 名古屋文化短期大学(山田家政短期大学)専任講師(1985年3月まで)
1985年4月 同大学助教授(1987年3月まで)
1987年4月 名古屋大学医療技術短期大学部助教授(1992年3月まで)
1992年4月 愛知県立大学外国語学部助教授(1999年3月まで)
1999年4月 同大学同学部教授(2018年3月まで)
2003年4月 愛知県立大学評議会評議員(2005年3月)
2004年4月 同大学大学院国際文化研究科教授(2018年3月まで)
2007年4月 同大学外国語学部英米学科主任(2009年3月まで)
2015年4月 教育研究審議会総務委員(2015年9月まで)
2018年3月 同大学定年退職

松本三枝子先生 研究業績目録

著 書

- 共編著『イギリス文化・文学への誘い』
開拓社 執筆箇所：199-211頁、226-244頁 2000
- 共著『ジョージ・エリオットの時空——小説の再評価』
北星堂書店 執筆箇所：251-260頁
「いかに変化を語るか——『ミドルマーチ』における女と科学」 2000
- 共著『恋愛・結婚・友情——アフラ・ベーンからハリエット・マーティノーまで』
英宝社 執筆箇所：127-152頁
「否定された女のセクシュアリティ——ハリエット・マーティノーの『ディアブルック』」
2000
- 共著『長い18世紀の女性作家たち——アフラ・ベーンからマライア・エッジワースまで』
英宝社 執筆箇所：159-80頁「ゴシック小説における母娘の絆——アン・ラド
クリフ『イタリア人』(1797)」 2009
- 共著 *Ivy Never Sere: The Fiftieth Anniversary Publication of The Society of English Literature
and Linguistics, Nagoya University*. Otowa-Shobo Tsurumi-Shoten.
執筆箇所：pp. 109-23. “Anxiety about Englishness in *Felix Holt, The Radical*” 2009
- 単著『闘うヴィクトリア朝女性作家たち——エリオット、マーティノー、オリファント』
彩流社 総頁数304頁 2012
- 共著『境界線上の文学』
彩流社 執筆箇所：139-55頁
「奴隷制廃止論者ハリエット・マーティノーの『時の人』とジェンダーの境界」 2013

共著 『英米文学における父の諸変奏』
英宝社 執筆箇所：30-52頁
「父との葛藤から民族の使命へ——『フロス河の水車場』から『ダニエル・デロ
ンダ』へ」 2016

共著 『帝国と文化——シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで』
春風社 執筆箇所：382-401頁
「ハリエット・マーティノーの『シナモンと真珠』は帝国の物語か——『経済
学例解』と植民地貿易」 2016

共著 『授業力アップのための英語圏文化・文学の基礎知識』
開拓社 執筆箇所：34-47頁 2017

論 文

「A Study of Matthew Arnold: The Division of the Self」(修士論文) 1978

「アーノルドにおける歴史観の変貌」
『中部英文学』(日本英文学会中部支部) 第5号、15-27頁 1979

「マシュー・アーノルド試論」
『名古屋大学大学院生論集』第8号、15-37頁 1979

「アーノルドの“The Scholar-Gipsy”と“Thyrsis”」
IVY (名古屋大学英文学会) 第16巻、1-12頁 1980

「Matthew Arnoldの悲劇観——Jon P. Farrelの“Matthew Arnold’s Tragic Vision”をめぐ
って」
『山田家政短期大学研究紀要』第9集、45-65頁 1983

「顔」を持った「もう一人の自己」——グエンドレン・ハーレス論」
『イギリス小説ノート』第4号、81-91頁 1983

「Daniel Derondaにおける“duty”——イギリス社会の場合」
『山田家政短期大学研究紀要』第10集、23-33頁 1984

「“Culture”と“Conduct”の関係が示すもの——Matthew Arnoldにおける個人と社会」
『中部英文学』(日本英文学会中部支部) 第10号、13-23頁 1984

「傷ついた団欒図——ダニエル・デロンダ論」
『山田家政短期大学研究紀要』第11集、21-31頁 1985

「絵画の意味——『ミドルマーチ』と『ダニエル・デロンダ』の場合」
『イギリス小説ノート』第5号、51-69頁 1985

「Daniel Derondaにおける“duty”——ヘブライズムにおける“duty”」
『山田家政短期大学研究紀要』第12集、23-34頁 1986

「行く先はどこへ——ジョージ・エリオットの『ミドルマーチ』と『ダニエル・デロ
ンダ』における逸脱者」
『山田家政短期大学研究紀要』第13集、15-25頁 1987

- 「彼女自身の人生——ドロシア・ブルック論」
『イギリス小説ノート』第6号、69-80頁 1987
- 「「つなぎ」としての個人」
『イギリス小説ノート』第7号、69-81頁 1989
- 「喪失することで得るもの——ダニエル・デロンダとグエンドレン・ハーレス」
『名古屋大学医療技術短期学部紀要』第2巻、115-122頁 1990
- 共著 “Women’s Voices: A Comparative Study of Women and Equality in Four Countries”
『愛知淑徳大学論集』第16号、17-42頁 1991
- 「『ダニエル・デロンダ』における物語という遺産」
『名古屋大学医療技術短期学部紀要』第3巻、1-9頁 1991
- 「フェミニズムとモダニティー」
『名古屋大学医療技術短期学部紀要』第4巻、1-9頁 1992
- 「*Daniel Deronda* の矛盾」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第25号（言語・文学編）、123-145頁 1993
- 「ヴィクトリア朝文学とオリエンタリズム (1) ——ベンジャミン・ディズレイリの『タンクレッド』」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第26号（言語・文学編）、141-158頁 1994
- 「『ダニエル・デロンダ』におけるユダヤイズム」
『中部英文学』第13号、17-30頁 1994
- 「ヴィクトリア朝文学とオリエンタリズム (2) ——『タンクレッド』における“Englishness”」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第27号（言語・文学編）、195-209頁 1995
- “Benjamin Disraeli and George Eliot: Contrasting Images of Judaism”
『愛知県立大学外国語学部紀要』第29号（言語・文学編）、121-135頁 1997
- 「Harriet Martineau と家父長制 (1) ——フェミニストの社会学者が書いた小説 *Deerbrook*」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第30号（言語・文学編）、117-135頁 1998
- 「Harriet Martineau と家父長制 (2) —— *The Hour and the Man* における黒人指導者の栄枯盛衰」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第31号（言語・文学編）、101-117頁 1999
- 「ハリエット・マーティノーと小説」
『イギリス小説ノート』11号、15-28頁 1999
- 「Margaret Oliphant の *Miss Marjoribanks* —— Mock-heroic で女を語る」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第32号（言語・文学編）、1-20頁 2000
- 「マーガレット・オリファントの『セイレム・チャペル』——母親が物語を圧倒する」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第33号（言語・文学編）、21-41頁 2001

- 「読む女—— *The Doctor's Wife* by Mary Elizabeth Braddon」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第34号（言語・文学編）、27-47頁 2002
- 「*Lady Audley's Secret* における二重人格を再考する」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第35号（言語・文学編）、61-77頁 2003
- 「女性の神秘的な力—— Margaret Oliphant の *Phoebe Junior*」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第36号（言語・文学編）、17-36頁 2004
- 「犯罪者／犠牲者である謎の女—— Isabel Vane/Vine in *East Lynne*」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第37号（言語・文学編）、25-40頁 2005
- 「19世紀イギリス女性雑誌研究—— *The Queen* (1861-63) 〈1〉」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第39号（言語・文学編）、75-95頁 2007
- 「絶妙のバランス感覚で読者を魅了した *The Queen*」
『イギリス女性雑誌研究——19世紀後期から20世紀初頭まで』
(2006年度愛知県立大学学長特別教員研究費研究成果報告書)、1-14頁 2007
- 「*The Queen* のイラストレーションと物語性——19世紀イギリス女性雑誌研究 〈2〉」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第40号（言語・文学編）、49-68頁 2008
- 「*The Mill on the Floss* における Maggie、語り手、George Eliot」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第41号（言語・文学編）、25-47頁 2009
- 「『ミドルマーチ』の諷刺家メアリ・ガース——ポリフォニーとしての『ミドルマーチ』」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第42号（言語・文学編）、59-78頁 2010
- 「*Illustrations of Political Economy* における経済学と文学の融合—— *Ella of Garveloch* と *Weal and Woe in Garveloch*」
『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第12号、119-139頁 2011
- 「マーティノーとギヤスケル」
『ギヤスケル論集』第21号、31-45頁 2011
- 「ハリエット・マーティノーの『デメララ』における奴隷制廃止論、功利主義、文明化の使命」
『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第13号、99-114頁 2012
- 「エリザベス・ギヤスケルとジョージ・エリオットのロンドン」
『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第15号、45-63頁 2014
- 「専門職の意味と役割—— *Deerbrook* と *Middlemarch* における医者とガヴァネス」
『ジョージ・エリオット研究』第16号、15-26頁 2014
- 「『オーロラ・フロイド』とモダニティ——オーロラと彼女の秘密」
『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第16号、65-83頁 2015
- 「Harriet Martineau と Hannah More ——政治・社会状況への危機意識と物語の役割」
『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第18号、47-68頁 2017

「Harriet Martineau と Jane Marcet ——対話から物語へ」
『愛知県立大学外国語学部紀要』第50号（言語・文学編）、89-110頁 2018

その他

共編書 *Women of Whyalla, Australia* (Librairie UNITE) 1987

「オーストラリアだより——「女性の地位向上」の先進的な歩みと施策」
Human Sexuality no. 13 (東山書房) 1993

「オーストラリアだより——「反差別委員会」と「機会均等裁判所」の役割」
Human Sexuality no. 14 (東山書房) 1994

「オーストラリアだより——根強い職場での妊婦への差別に抗して」
Human Sexuality no. 15 (東山書房) 1994

「オーストラリアだより——女子教育のアクション・プランに見る方向性」
Human Sexuality no. 16 (東山書房) 1994

“April is the Cruellest Month” *Darwin College Magazine, Cambridge.* no. 11 1996

「挿絵入り出版文化史」
『英語教育』Vol. 50, No. 7 2001

June Skye Szirotny, *George Eliot's Feminism: "The Right to Rebellion"*
(Basingstoke: Palgrave Macmillan, 2015)
『ジョージ・エリオット研究』第19号、83-96頁 2017

口頭発表

「希求の旅としての田園詩」
日本英文学会中部支部学会第32回大会 1979

「アーノルドの“a third host”」
日本英文学会中部支部学会第35回大会 1982

「Gascoigne 氏と Deronda 氏」
日本英文学会中部支部学会第36回大会 1983

「二つの居間の絵——*Daniel Deronda* 論」
日本英文学会中部支部学会第37回大会 1984

コロキウム「ヴィクトリア朝文学の女性像」担当「ジョージ・エリオットの女性像」
名古屋大学英文学会 1987

「*Daniel Deronda* の破綻」
日本英文学会中部支部学会第44回大会 1992

「ディズレイリにおける「イギリス的なもの」と「ユダヤ的なもの」」
日本英文学会中部支部学会第48回大会 1996

- 「“The Angel in the House” に抵抗して—— George Eliot の女性像」
名古屋大学英文学会 1997
- シンポジウム「女性作家達の考えるユートピア」
担当「ハリエット・マーティノーの『ディアブルック』」
日本英文学会中部支部学会第49回大会 1997
- 「Benjamin Disraeli の *Coningsby* と関直彦訳『春鶯囀』」
日本比較文学会中部支部研究会 1998
- シンポジウム「*Middlemarch* を読む」担当「『ディアブルック』と『ミドルマーチ』」
日本ジョージ・エリオット協会第1回全国大会 1998
- シンポジウム「Sensationalism と大衆文化」
司会及び担当「女性化したジャンル——イギリス煽情小説」
日本比較文学会第18回中部大会 2004
- シンポジウム「万博の19世紀、多元的公共圏の時代」
司会及び担当「娯楽としての外国文化——*Lady Audley's Secret* と『隔簾影』」
日本英文学会中部支部学会第57回大会 2005
- シンポジウム「エリザベス・ギヤスケルと同時代の女性作家たち」
担当「マーティノーとギヤスケル」
日本ギヤスケル協会第22回大会 2010
- シンポジウム「19世紀イギリス小説と都市空間」
担当「エリザベス・ギヤスケルとジョージ・エリオットのロンドン」
日本ギヤスケル協会第22回大会 2012
- シンポジウム「帝国と女性——イギリス、カリブ海域、アジア」
司会及び担当「ハリエット・マーティノーと人種差別」
日本比較文学会第34回中部大会 2012
- シンポジウム「ジョージ・エリオットと19世紀女性作家」
担当「専門職の意味と役割——『ディアブルック』と『ミドルマーチ』の医者
とガヴァネス」
日本ジョージ・エリオット協会第17回全国大会 2013
- シンポジウム「近代イギリスのチャリティを読む」
司会及び担当「*Harriet Martineau の Illustrations of Political Economy* と *Poor Law*」
日本英文学会第88回大会 2016

学会活動・社会活動

日本英文学会
日本比較文学会
George Eliot Fellowship
日本ヴィクトリア朝文化研究学会
名古屋大学英文学会
日本英文学会中部支部
日本ギヤスケル協会

名古屋市女性海外派遣団団長（オーストラリア、ニュージーランド）（1991）
名古屋市女性海外派遣団選考委員（1991-1993）
名古屋大学英文学会誌 *IVY* 編集委員（1998-2003）
名古屋大学英文学会誌 *IVY* 編集委員長（2000-2003）
日本比較文学会中部支部幹事（2002-）
日本英文学会中部支部学会誌『中部英文学』編集委員（2005-2008）
日本英文学会中部支部学会誌『中部英文学』編集委員長（2007-2008）
日本英文学会中部支部運営委員（2011）
日本英文学会中部支部副支部長、理事（2013）
日本英文学会中部支部長（2014-2015）
日本英文学会理事（2014-2015）
日本比較文学会中部支部長（2015-）
日本比較文学会理事（2015-）